

# チェンナイ準全日制補習授業校の学校経営

前チェンナイ補習授業校校長 吉本 卓

キーワード：準全日制補習授業校、チェンナイ、学校経営

赴任校の概要（2022年3月10日現在）

チェンナイ補習授業校

Japanese School Educational Trust of Chennai

URL：<https://www.jschoolchennai.com/>

## 1. はじめに

ワシントン DC 補習授業校とシンガポール日本人学校（チャンギ校）での勤務経験を活かし、チェンナイ補習授業校で取り組んだ学校経営の概略について紹介する。世界に有数の準全日制補習授業校を経営することは貴重な体験であり、学校改善後の充実感も味わうことができた。新型コロナ禍対応の詳細は割愛する。

## 2. 州都チェンナイ

南インドに広がるタミルナードゥ州の州都チェンナイ（旧名マドラス）は、人口1100万人の大都市である。歴史的に有名な東インド会社が設立された地であり、マドラスチェックの言葉にあるように絹織物や綿織物の歴史の街でもある。現在は、自動車・二輪車・建設機械などの会社やIT産業が世界各地から進出し、約200社の日系企業が活動されている。それに伴い、商業施設等の建設が進み、交通量も多く急速に成長を遂げている。気候は乾季と雨季に分かれて、4月～6月が最も暑く40度を超える日もあるが、青空の日が続くベンガル湾沿いの緑あふれる美しい街である。南インドの人々の性格は穏やかで、散歩で行き交う笑顔は、心を和ませてくれる。

## 3. チェンナイ補習授業校の概要

### (1) 準全日制補習授業校

本校は、文部科学大臣の認定を受けた「準全日制補習授業校」として、特色ある教育実践を行っている。昭和50年にマドラス日本語補習教室として開校し、平成10年にはチェンナイ補習授業校に名称を変更して中学部授業も始めた。平成15年からAmerican International School Chennai（以下AISCと略す）内の教室を借用し、学習指導要領に沿って国語と算数（数学）を中心に理科・社会も指導している。本校は日本と同じように4月～3月で教育課程を編成しているが、AISC校舎を借用している関係でAISCに合わせて前期・後期の二学期制を施行し、それぞれを前半・後半に分けた四期制で実施している。

小学部は、インターナショナル校（以下インター校と略す）の7時間授業後に本校で2時間（午後3時半～6時）学び、一日に9時間の授業を受講している。恵まれた学習環境であるが、小学部1年生も「1日に9時間の授業」で学ぶことは、負担の大きい学習量になっている。

中学部は、平日はインター校（7時間）で学び、本校には隔週水曜日（4時間）と土曜日（6時間）に受講している。6名の専任講師（以下講師と略す）が教科指導し、文部科学省派遣教師（校長）は、学校運営全般を担当している。

【準全日制補習授業校の設置条件】（文科省規定より抜粋）

3 国語、算数（数学）、理科及び社会を含め、4教科以上の授業を行い、各児童生徒とも週5日の授業実施日が（1人の児童生徒が全日制として週5日程度通して授業をうけていること。）、また、各学年とも年間175日以上授業日数が確保されていることが必要です。

(2) 児童生徒数の推移と課題

初代校長が赴任した昭和55年度から平成21年度までは、児童生徒数が20名以下の小規模な在外教育施設であった。平成22年度から30名を超え始め、平成26年度には最大数の93名になった。今は70名前後で推移している。チェンナイ日本人会の人数も増えているが、単身者が多いと聞いている。要因の1つに、AISCの高額な授業料（初年度経費：約450万円）があげられる。10%の児童生徒が他のインター校に通学しているが、通学時間の関係で1時間目の授業に間に合わないことがあり、課題の1つになっている。

令和元年度のAISC校舎借用契約時に、他のインター校に通学する児童生徒がAISCに入校できなくなりかけたが、在チェンナイ日本国総領事の支援により入校が継続できることになった。今後の対策として、AISC以外の借用校舎を検討したが、安全・安心に通学できる校舎を見つけることは難しい状況であった。

令和2年4月は児童生徒数80名で開始予定だったが、新型コロナ禍による退避帰国者が急増し、児童生徒数は10名まで減少し、学校財政は急激に悪化した。校長から学校運営委員会等への「学校財政再建計画（提言）」を行い、令和2・3年度を何とか乗り切った。対応策については、紙面の関係で割愛する。

(3) トリプルスクールで学ぶ子どもたち

2つの学校で学ぶ補習授業校の子どもたちは、「ダブルスクールで学ぶ子どもたち」と言われている。本校はAISC校舎借用の関係で夏期休業日が長く（6月～7月）、その間に多くの子どもたちが日本の地元校に体験入学（71%）しており、「トリプルスクールで学ぶ子どもたち」と言っても過言ではない。

多くが地元校の一学期終業式（7月19日）まで在籍し、7月末には本校の授業が始まるので、子どもたちの夏休みはわずかに一週間ほどしかなく、3校で学ぶ総授業時数は数え切れない。

しかし、体験入学した子どもたちが「このままではいけない。頑張らないと」と学級担任に話すなど、日本の学校での学びは、「子どもたちの更なる学習意欲」につながっている。

体験入学する家庭には、「入学先の学校長への礼状」を渡しており、体験入学期間等を把握している。

【体験入学の状況（令和元年度）】

小学部：33人（79%） 平均日数：29日間、中学部：3人（33%） 平均日数：17日間  
全体：36人（71%） 平均：28日間 ※小学部在籍：42人・中学部在籍：9人

4. 教育指導の創意工夫

新型コロナ禍による厳しいロックダウンが令和2年3月23日から始まり、4月の臨時便で殆どの邦人が退避帰国した。学校運営委員会の意向で教職員も帰国したが、帰国翌日から職員会議（Zoom）を実施した。また、5月からオンライン授業に取り組めるように、保護者会や学級懇談会もオンラインで繋いでいった。新型コロナ禍は学校形態を大きく変えたが、産物として教員のICT指導力は向上していった。

(1) 「オンライン授業」から「併用授業」へ

①オンライン授業

一部の児童生徒（6名）がチェンナイに在留したので、5月から始めたオンライン授業（Zoom）は、日本から発信した。日本とインドの時差（3時間30分）があり、授業開始時刻の調整が難しかった。また、バンガロール補習授業校（巡回指導校）が休校されたので、希望児童2名の編入学を認めた。

②併用授業の開始

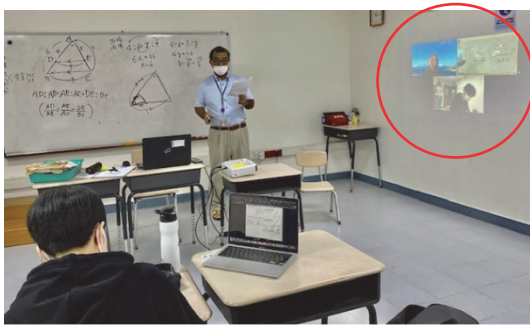
令和4年1月にタミルナードゥ州教育省が学校入校を認め「対面授業」を再開したが、入校できな

い児童生徒（※1）には、対面授業とオンライン授業の児童生徒が同時に学べる学習環境を整備し、Zoomとプロジェクター（2台）を活用して「併用授業」を実施した。

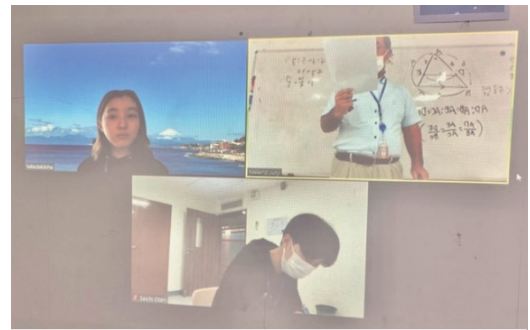
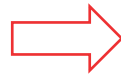
※1バンガロール在住児童（2名）と日本在住生徒（1名）

## (2) 併用授業の授業例

「対面学習の児童生徒」と「オンライン学習の児童生徒」が一緒に学ぶ、ハイブリットな授業を実施した。Zoomで繋いだ児童生徒の顔を教室に投影し、実際にそこにいるかのような雰囲気で行ったので、保護者と児童生徒には好評であった。講師もPC器機の取扱いに慣れていき、ICT技術力がより高まった。



中学部の併用授業



左上は日本から受講している生徒

## (3) 令和3年度卒業式の取り組み

AISCの入学人数制限と日本在住生徒（中3）の関係で、「対面とオンラインの併用方式」で実施した。出席した卒業生には卒業証書を手渡し、学校長式辞も対面で行った。オンライン参加の卒業生は、式場の座席位置にスクリーンを設置・投影し、卒業証書授与なども一緒に行っているように工夫した。在校生並びに保護者はZoomで繋いで、来賓挨拶（在チェンナイ日本国総領事・評議員会代表取締役）もオンラインで実施した。保護者・児童生徒からは「思い出に残る卒業式になった」と好評であった。

## 5. 派遣教師（校長）の職務

準全日制補習授業校の業務は多忙で、多くのメール対応をしながら全ての学校業務を1人で遂行している現状である。「校務分掌表」を作成して講師にも分担させているが、学校運営委員会との契約書の勤務時間が「午後2時から午後6時まで」になっており、午後3時半からの授業準備（教材研究）と2時間授業を行うだけで時間が過ぎている。そのため、校長の勤務態様は極めて厳しい状況になっている。

また、小学部を平日5日間、中学部を土曜日（全日）に開校しているため、勤務日数は週6日間である。

### (1) 文科省・外務省（総領事館）・海外子女教育振興財団との事務対応

事務職員（1名）は日本語で対応ができないため、下記の事務は全て校長が行っている。

#### 【主な業務】

- ①文科省 …… 各種調査・定期報告・学校運営に関わる連絡対応
- ②外務省（総領事館） …… 各種調査・補助金申請・教科書発注・避難訓練等
- ③海外子女教育振興財団 …… 副教材と指導書発注・講師採用事務

### (2) 学籍事務

保護者メールの対応と入学・編入学児童生徒の学籍事務は校長が行っている。特に在籍人数は授業料収入に関わるので、「月別在籍児童生徒数」「転出入に関わる予定数」等は学校運営委員会で報告している。

#### ①児童生徒の転出入に関わる学籍事務

- ・「学籍事務文書の新年度版」を学校HPに掲載する。

・希望者メール受領後に「入学説明会」を開催し、児童生徒の面接後に入学許可証を発行する。

## ②学籍管理

一般的な学籍事務（指導要録・出席簿など）を作成し、管理する。

## (3) 教育課程の編成（年間指導計画の作成）

AISCの年度予定表を基に本校の「年間行事予定表」を作成し、各学年の「年間教科時数」を設定する。それを基に講師が「学年別授業指導計画」を作成し、講師の「教員別指導計画（週案と月案）」について個別指導する。

①年間行事予定表……4月に保護者配付するが、AISCの新年度開始（8月）に修正版を再配付する。

②年間授業時数表……①を基に、各学年の年間授業時数を確定する。

③学年別授業指導計画……②を基に、担当学年の講師が年間指導計画を作成する。

④教員別指導計画……③を基に、担当学年の講師が指導計画（週案と月案）を立てる。

### 【AISC校舎借用による課題】

AISCの年度は8月から翌年6月までの一年間になっており、新年度日程が7月に提示される。そのため、「年間行事予定表（改訂版）」を8月に発行しなければならない。改訂版では、AISC入校不可による急な学校行事の変更や授業時数の再調整が生じている。

（変更事例）卒業式：当初 3月15日（日）⇒ 変更後 3月8日（日）

## (4) 学校行事

日本人学校のように季節感を味わう行事を実施している。「こいのぼり集会」「豆まき集会」では、5・6年生が活躍し、「書初め週間」は全学年で楽しく取り組んでいる。「新体力テスト」は保護者ボランティアに支えられ、「ものづくり」への関心を高める工場見学も日系企業の支援による教育活動である。行事の二本柱である「運動会」や「学習発表会」は日本人会と連携し、子どもが輝く場になっている。

### 【主な学校行事】

4月：入学式・前期始業式・避難訓練・学年懇談・個人面談・授業参観 5月：鯉のぼり集会  
7月：中学部夏期特別授業 8月：身体測定・新体力テスト・授業参観  
9月：避難訓練・社会科見学・前期終業式 10月：後期始業式 12月：学習発表会  
1月：書き初め・学級懇談会 2月：豆つかみ集会・新入生説明会・身体計測・運動会  
3月：卒業式・修了式

## (5) 学校運営委員会

定例会議（月1回）では資料を基に学校状況を説明し、学校課題の解消策について提案・協議している。

提示資料：学籍・学校行事・指導上の課題・学校改善策の提言など

## (6) 現地採用教員（専任講師）の採用

海外子女教育振興財団の「教員雇用支援」を活用して採用しているが、採用人数の確定に必要な基礎資料は校長が作成している。令和2年度の講師採用は、倍率26倍の厳しい採用数（1名）であった。

## (7) その他の業務

卒業証書・通知表・学校要覧の作成、学校HPの更新、英検事務など

## (8) 臨時的授業対応

文科省派遣規則に準じ、校長は講師の欠講などの臨時的な授業対応以外は授業を担当していない。

事務職員が日本語対応できないので、校長が職員室に居ないと緊急時の適切な安全対応ができない。

## (9) AISC教員との教育連携

90%の児童生徒が通学する AISC の「教員・カウンセラー」と、主に下記の教育相談を実施している。

・生徒指導上の対応 ・学級経営上の児童生徒理解 ・教科指導上の教科内容の理解力 など

(10) 講師の服務管理

講師の服務管理並びに健康管理（ワクチン接種など）を行う。